

第3回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年3月16日（金）19:00 ～ 20:30
場 所	大東北公民館会議室
出 席	委 員 24人 事務局 教育部長、企画政策課長、学務課長、学校教育課長、 学校教育課主任指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室主任、教育政策室指導主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育部長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 第2回地域検討委員会について ※事務局より説明</p> <p>5 協議事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 城東学園の現状及び小中一貫教育を推進するための学校施設等について ※委員長より説明</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 学園内の学校施設の在り方について（グループ協議）</p> <p>【1グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合小学校のみ隣接型の新設校舎の場合、クラス替えができ、そして小学校と中学校の切り替えがある。一体型にしてしまうと、小学校と中学校の連続が子どもにとって刺激にならない。 ・小学校3校を統合する場合は中心の小学校をどこにするのか難しい。 ・分離型の現状を維持すると、今と変わらなくなる。小中一貫教育について保護者に伝わりにくく、同じ学園であるという意識は育ちにくい。また、子どもの力を発揮できないと思う。 ・こども園ができるのに、分離型の現状維持では幼稚園や保育園が1つになる意味が無い。 ・ここだけの話にしてはならない。アンケートをやると、若い世代もいいやすい。 ・色々な施設のパターンを示してもらって分かりやすかった。 ・学校の懇談会や老人会等、色々なところでこういう話を出すべきである。 ・小学校をどこかに集めると無くなる場所は寂しくなるのは確かであろう。 ・歩いて登下校できないのは大変。拠点を作ってそこまで歩いて、そこからバスに乗るという方法もある。 <p>【2グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多く的人数で学ぶ方が、子どもにとっては良いと思うが、通学の問題が心配である。資金のことも考えなくてはいけない。 ・ここはほのぼのとした雰囲気があって良いが、幼稚園から大規模校の子とは打たれ強さが違う。色々なタイプの人間と接することで対応できるようになる。 ・1年生は男女でも仲が良い。幼稚園も学年を超えて仲が良い。そういう所は良いが、複式学級になるのは困る。 ・少子化で、学校を一緒にせざるを得ないと思う。意見を聞くことも大切だが、ぐずぐずしているのは良くない。市で決定してどんどん進めていけば良いと思う。 ・周囲の意見として、学校がいつ、どこにできて、どう通うのか分かれば良いという意見が多い。 ・周囲の意見として、どこへ作るのか、いつからなのかという質問が多い。 	

- ・決定したことについて、問題点を解決するように話し合いを進めていくのが良い。
- ・このあたりの学校は小さな学校が多いが、校地が広く管理は大変である。PTAの古紙回収も大変である。クラブ活動も少ない人数の先生だけではできない。
- ・大きな学校でも小さな学校でもやらなくてはいけないことは同じようにある。
- ・小さい学校はとて大変で、職員が出張の時、校長は授業に入ったり、電話番をする。
- ・地域によっては、学校がなくなることをあきらめているところもあれば、あきらめきれないところもある。
- ・地域意見交換会で反対意見があれだけ出ると、賛成の人は意見を言いにくい。
- ・どこの学校も古いため、思い切って新しい校舎を作るのが良い。
- ・一体型の学校はいいことばかりのような気がする。
- ・中学校へのハードルは高い。小中連携をしていることにより入学前に知っている子がいるということはとても良い。
- ・一体型の新築が良い。通学は心配である。通学の安心安全は保障しないとイケない。
- ・まちづくり協議会、シニアクラブを巻き込んで、見守りをしてもらう活動も必要であり、現在もすでに多くの方に見守りをしていただいている。
- ・地域の方にかかわってもらうことで、学校に愛着がわく。学校に地域の先生がたくさん来てほしい。
- ・今の時点でも学校が厳しい状況だということがわかる。
- ・教科担任制など、1つの学校になった方がいろいろなことを展開しやすい。中学校の先生が移動してきて授業をするというのは現実的ではない。
- ・良い面をアピールして、早めに決めた方が良いと思う。
- ・義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校とどちらの方が良いのか。

【3 グループ】

- ・学校の形態は、「一体新築型」が一番よい。老朽化すれば建替が必要になるので、少しずつ増築するよりいい。
- ・「隣接型」がいい。地区の小学校がなくなるのは寂しいが、財源が底をつく。近くにつくっていくしかない。いろんな地区で説明しながら進めていくのがよい。
- ・現実的には、「隣接型」か「一体増築型」だと思う。3校の土地の活用を考えると、これが望ましい。中小は遠いがやむを得ない。「分離現状維持型」は今と変わらない。
- ・現状維持を望む人は、そのデメリットをどう考えるのか。感情的になっているが、そこをどう考えるかである。
- ・人数が少ないと、お互いに声を掛け合ったり話をしたりすることができず、同じ遊びしかない。いろんな人と接する機会があって、いろんな話や遊びをすることが大事である。
- ・現状維持を望む声では、子どものことを考えられていない。感情のみになっている。
- ・運動会でも、1学年が少なく、男女が一緒に、人数が多かった時代と比べて気の毒である。近くに学校があれば通うのは便利だが、いろんな人と接することができない。
- ・現実的なことを見ないで感情だけで論じられている。どの学校も通えない距離ではない。
- ・川久保の人は中小だが、以前は土方小まで通っていた。入山瀬も距離がある。
- ・城東中を用地と考えると、長くて1時間くらいである。道は良い。
- ・こども園は場所が決まっているが、小学校が全然違う場所になるより、一体型にするほうがよい。幼稚園関係者も関わるべきだと思う。
- ・回覧が来て、いろんな活動を知ることができたのでよかった。地区の人たちに知らせていったほうがよい。
- ・若い人たちの意見が大事である。若い人がどうしたいか。今、小学生の子どもがいるが、学校ができる頃には卒業している。これから入る人たちの意見が欲しい。
- ・ある程度の合意が必要である。
- ・合意も、どこかで見切りをつけていかないと、どんどん変わっていつてしまう。
- ・自分たちが関係なくなっていくと離れていつてしまう。
- ・用地は城東中の位置が中心でよいし、理想的である。
- ・いろんな施設が上手い具合に散らばっているのがよい。中小の方へ行ってしまうと難しい。
- ・かつて、城東中を建てている時に校舎がなく、土方小で勉強した。1学年250人いた。

城東中の山の西を取れば土方小と繋がる。

- ・拠点校ができた場合、防災拠点を心配している人もいる。今の学校の跡地を上手く利用することができる。
- ・まちづくり協議会もまだ上手く動いていない。こども園は、幹線道路脇の機動性がよい所がいいという意見がある。
- ・中学校を中心に置いた方がよい。インフラを考えると中心がよい。
- ・登下校において、不審者問題もあるので、バス等安全の確保された方法で通ってほしい。それに街の人々も乗れるようになるとよい。教育だけではなく、街全体がどう広がっていくのかも考える必要がある。この地区にもっと人が集まることをイメージしたい。東中学区は人が増えており、住みやすい各施設がある。
- ・大坪台やガーデンは、一時的に増えたが、年齢が上がっていってしまう。目先だけで考えてもだめである。増やすことより現状残った人数で考えた方が前に進むと思う。
- ・これだけ人口が減ると、反対派の人たちにも複式学級になるというイメージを持ってもらう必要がある。いろんな説明をしてもらうことで考えも変わっていくと思う。
- ・最近、旧掛川市へ移っていく若い人が多い気がする。城東中学区すら存続が難しくなってくる。旧掛川市内へ通わなくてはいけなくなると思うと、城東内で通える方がよい。中は、バスが廃止になり交通手段がない。
- ・小貫、高瀬は便利、中方は不便である。
- ・中小から15人中3人が、城東中以外の外の中学校へ行ってしまふ。城東中自体が空洞化する。城東中学区内から必ずしも城東中へ入るとは限らない。私立へ行く人もいる。
- ・早くやっついていかないと他へ移ってしまう。現在、平均すれば、5%くらいは学区外の他中学校へ行く。いろんな面があり、奥が深い。
- ・新たに進めていくというのは、将来的に考えていかなければならないことである。

【4グループ】

- ・学校の形態には色々な形があるが、子どもの視点が必要であると思う。今ある学校の学級人数ぐらいで、クラス替え等の逃げ場があると良いと思う。多すぎても難しいのではないか。
- ・色々な条件がそろってきて、これからの子どもたちに、今何が必要で、将来大人になった時にどうなってほしいかというビジョンが必要。学校施設の形態にはめ込むのは難しい。
- ・地域のことを視点に考えると学校は防災の拠点になる。
- ・色々な意見はあるが、どの道を進めばいいのか難しさを感じる。
- ・人は生まれたときに身近な家族がかかわり、成長に従ってだんだんとその範囲を広げていく。発達段階によってかわる範囲は異なる。どの規模が必要なのだろうか。
- ・小学校から中学校へ進学する際、その規模は一気に3倍になる。このままで本当に良いのか疑問である。
- ・小学校へ入ったばかりは今の規模が良いが、小学校高学年になるとその規模のままで良いのか。今、3小学校で合同自然教室を行っているが、これは良い効果を上げていると思う。
- ・昔から、この地域の学校は単学級で、それが普通になっている。もし複数学級になったら、親もどういう風に対応していいか不安もある。こども園ができて、一緒に過ごした園児たちが小学校で分かれるのはどうなのか。
- ・こども園ができたとき、クラスのほとんどが3小学校に別れる。子どもや親の不安もあるのではないか。
- ・原野谷学園では、こども園で一緒だった園児たちが別々の学校へ進学し別れる。そのことを残念に思っている保護者がいる。
- ・中学校へ入学する際、「中1ギャップ」などと言われているが、子どもたちの不安はどうだろうか。不安をなくす1つの手立てが合同自然教室など3小学校で取り組んでいることである。もっと頻繁に交流ができた方がよい。
- ・自然教室では、3小学校の児童がグループ内で交流していた。非常に良かった。
- ・地域の行事でドッジボール大会が毎年開催され、交流が図られている。
- ・学校でも、自然教室の他に、学習での交流を考えたいが、教科の中ではなかなか難しい

ところがある。やはり行事の交流が中心となる。

- ・ 4園合同で走り方を学校の先生から教わる取り組みをし、交流を図っている。
- ・ 各小学校で持久走大会を行っているが、学級内での競い合いには限度がある。3小合同の持久走大会を開催したくさん集まる中で取り組むことが良いのでは。
- ・ 昔、中地域は大浜中学校の前身の城南中学校へ通っていた歴史があり、地域の中では大浜中学校の方が近いから、城東中学校にこだわらなければそちらへ通っても良いのではという意見もある。
- ・ 学校と家の距離から見ると遠い地域もある。上内田小学校の方も、城東中へ来た方が近いから良いのではないか。また、岩滑地区は学校から遠いが人数が増えている。
- ・ 部活動のことで、学校規模が大きくなったら、部活動も増えるのではないか。
- ・ 例えば、城東中学校の近くに「さんりーな」の様な施設を建設し、水泳の授業等をそこで行う。指導者は民間の方に依頼することで、指導効果が上がる。他の部活動も同様にできる様になれば良い。
- ・ スポーツ少年団もその中に入ることで、一貫した指導がなされて、部活が強くなるかもしれない。さらに塾等、色々な施設が入ってくることはすごくいいと思う。
- ・ 中学校では、生徒数減少に伴い、教職員の人数も減り、それぞれの部活動について、未経験の教員が担当している。他の施設があり、専門性のある指導者がいれば、色々な可能性が広がると思う。
- ・ 全国に無いような学校ができれば人が集まってくると思う。夢はどんどん広がってくる。
- ・ 昔、バレーボールのスポーツ少年団の監督を行った時、団員は11人ぐらいで、どうしても桜木小みたいな大きな学校には勝てない。人数が集まり、大きな母体の中でスポーツ少年団の活動ができると良いと思う。
- ・ 今の学校も良いが、体育館の老朽化等を考えたとき、各学校3つ建てるより、1つになって建てた方が良いと思う。

【5 グループ】

初めに、施設形態ごとに、メリットとデメリットを考えることとした。

<施設形態の現状維持型について>

- ・ 施設形態の現状維持型については、先生の目が行き届き、勉強面での保護者としての不安がないと思う。
- ・ 建物の老朽化で、すきま風の音で先生の声が聞こえないこともある。
- ・ 単学級は、人間関係の固定化、クラス替えがなく子どものクラスでの立ち位置が決まってしまう。
- ・ 単学級では競い合いができない。
- ・ 小規模校では異学年交流が密で、高学年の子が低学年の子を世話をするなど、高学年の子が育っていくメリットはある。

<自由意見>

ここで、型ごとにメリット・デメリットを出すのは時間的にも難しいということで、自由意見を出し合うことになった。

- ・ 自分は小学校をずっと単学級で過ごしてきて、不便なく暮らしてきた。複数学級のメリット・デメリットが思い浮かばない。また、子どもの数が少なくなって、体育の授業でサッカーなど団体競技ができなくなってしまうという状況も想像できないが、団体競技によって助け合いなど心の成長もしていくこともあると思う。
- ・ 仮に一貫校となったとき、リーダーシップをどの段階で取っていくのか。視察させていただいた一貫校では、初等部、中等部、高等部となっていたが、6年生のリーダーシップについて問題視され、6年生がリーダーシップを取るようになったと聞いた。
- ・ 理想は小学校一つ、中学校一つだが、保護者にとっては通学方法が心配であるので、バスで通えると分かれば安心だと思う。視察した学校では、4 km以上の子どもがバス通学と聞いた。
- ・ 自分の親世代は、小学校が地域からなくなることが更に少子化に繋がると考えているように思う。若い保護者世代は、新しい学校ができて、バス通学ができるとなれば、学校が地域からなくなることそれほど重要視しないのではないか。

- ・高学年になってくると男女差・個人差が大きくなっていくので、少人数の単学級では、球技などで得意でない子たちの活躍できる場面がなくなってしまう。子どもの数が多ければ、チーム分けによってそういったことも解消できるように思う。
- ・子どもが安心して教育を受けられ、切磋琢磨できる環境として最良の形態が分からない。他の先進事例が参考になるのではないかな。
- ・仮に統廃合することになったとしても、旧校舎をコミュニティセンターとし、地域住民が活用できる場を残していくといったことを地域に伝えていくのがよいのではないかな。先日の意見交換会では、「学校がなくなるのは嫌だ」という思いが非常に強い印象だったが、そうではなくて、学校跡地をまったく更地にするのではなく、地域で子供たちを支えていきやすくなる場所ができ、また、子供たちはより良い環境で学べるということ伝えていくのがよい。
- ・少子化問題の解消や住宅地の開発といったことは今すぐは無理なので、現状において、どのように進めれば地域の方に安心してもらえるかが大事である。
- ・少人数なら先生が目が行き届くといったメリットがあるが、一体校になっても教員の加配などで少人数学級を編成できないのかな。
- ・仮に一体校になれば、特別支援学級の子が学園外の離れた学校に通わなくても、同じ地域の学校に通えるようになるのではないかな。
- ・既に学園内の小学校間では交流（連携）が進んでいて、小・中の交流もある。その活動を子供たちが親、祖父母の人たちに伝えてくれば、理解が進むのではないかな。
- ・今、一つの学校だけではなく、学園の中でヨコ・タテの交流が進んでいる流れの中で、少人数の単学級で何とかやっという考え方も変わっていくのではないかな。
- ・城東中学校を中心としたエリアに幼保・小・中学校が集まって、この地域の子供たちは皆ここに通って学ぶということになれば、環境の変化による中1ギャップなどもなくなるのではないかな。それが子供たちにとって一番よいのではないかな。

6 連絡事項

(1) 今後の予定について

- ・第4回地域検討委員会 平成30年5月23日（水） 19:00～

(2) 新たな学園づくり保護者説明会

- ・城東保育園保護者
平成30年4月4日（水） 10:45～11:30 城東保育園
- ・佐東幼稚園
平成30年5月24日（木） 11:00～12:00 佐東幼稚園
- ・中幼稚園
平成30年5月29日（火） 13:00～14:00 中幼稚園
- ・土方幼稚園
平成30年5月31日（木） 13:00～14:00 土方幼稚園
- ・土方小学校
平成30年5月12日（土） 10:00～11:30 大東北公民館
- ・佐東小学校
平成30年5月12日（土） 13:30～15:00 佐東地区センター
- ・中小学校
平成30年6月2日（土） 10:00～11:30 中地区防災センター

7 閉会